取扱説明書

防音型高圧洗浄機
JE728MV

空冷４サイクル・OHV ガソリンエンジン

⚠ 注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

JE728MV
X750-027 93 4
X750807-300 4

はじめに

このたびは、防音型高圧洗浄機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成しています。本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。

- 本機の取り扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。また安全作業上で影響が出るような病気・薬服用・体調不良のときは、本機の使用を控えてください。

- 本機を使用した作業や本機の取扱いにおいては、関連する法律（労働安全衛生法、消防法、騒音規制法等）およびその法律に基づく規則を遵守してください。

- 本機を貸し出すときは、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

- この取扱説明書は、いつでもご覧いただけるよう、所定の場所に大切に保管してください。紛失・汚損・破損したときは、お求めの販売店にご注文ください。

- ご不明な点、お気づきの点がありましたらお求めの販売店にご相談ください。また、本機についてのお問い合せ時は、モデル名と製造番号をお知らせください。

- 本機を廃棄されるときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りの場合は、お求めの販売店にご相談ください。

■　この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

⚠ **警告**：取扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

⚠ **注意**：取扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合および物的損害が発生する可能性がある場合。

＜注意＞：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『⚠ **注意**』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。
いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

目次

1．安全上の注意 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
2．仕様 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
3．用途 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4．各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
5．装備機能と操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5－1．アンローダーバルブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5－2．スローダウンバルブとスイッチ ・・・・・・・・・・・10
5－3．エア抜きバルブ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5－4．噴射ガン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5－5．オイルセンサー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
5－6．車輪止め ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
5－7．時間計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
6．始業前点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
6－1．燃料の点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
6－2．オイルの点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
6－3．燃料・オイルもれの点検 ・・・・・・・・・・・・・・14
6－4．バッテリー端子の締付け点検 ・・・・・・・・・・・14
6－5．吸水ストレーナーの点検・清掃 ・・・・・・・・・・14
7．運転方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
7－1．運転準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
7－2．始動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
7－3．停止 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
8．各種作業時の本機操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
8－1．洗浄・防塵散水作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・20
8－2．高所揚水作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
9．点検・整備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
10．長期保管・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
11．故障時の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

1．安全上の注意

⚠ 警告：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので。室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 警告：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 運転中は、内部の配線や電気部品に触れないでください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 警告：目や皮膚の障害

- バッテリー液には希硫酸が含まれています。バッテリーを転倒させたり、衝撃をあたえたりしないでください。バッテリー液が漏れ、やけどや失明の原因となることがあります。バッテリー液が付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

⚠ 警告：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。

⚠ 警告：火災

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜取り・燃料ストレーナーの清掃などを行うときは静電気を除去して、必ずエンジンを停止し絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料は、所定のレベル（燃料タンク給油口こし網の赤いリング上面）以上給油しないでください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料もれがある場合は、絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から 1m 以上離し、水平な場所で運転してください。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて運転しないでください。
- 本機をトラックなどで運搬するときは、燃料タンクから燃料を抜いてください。抜いた燃料や予備の燃料は、消防法に適合した携行タンクで保管・運搬してください。
- 車両に積載して運転しないでください。

⚠ 警告：けが

- 噴射ガンを人や動物に向けないでください。
- 噴射開閉時は反動がありますので、足元を安定させ、噴射ガンは前後のグリップを両手でしっかり持って、作業を行ってください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品を取り外したりして使用しないでください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気ガスを通行人や民家などに向けないでください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。

⚠ 注意：火災

- 保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。

⚠ 注意：やけど

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルやポンプオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンとポンプが冷えてから行ってください。運転中にエンジンのオイルゲージやポンプのオイルキャップを開けると、高温のオイルが吹き出します。

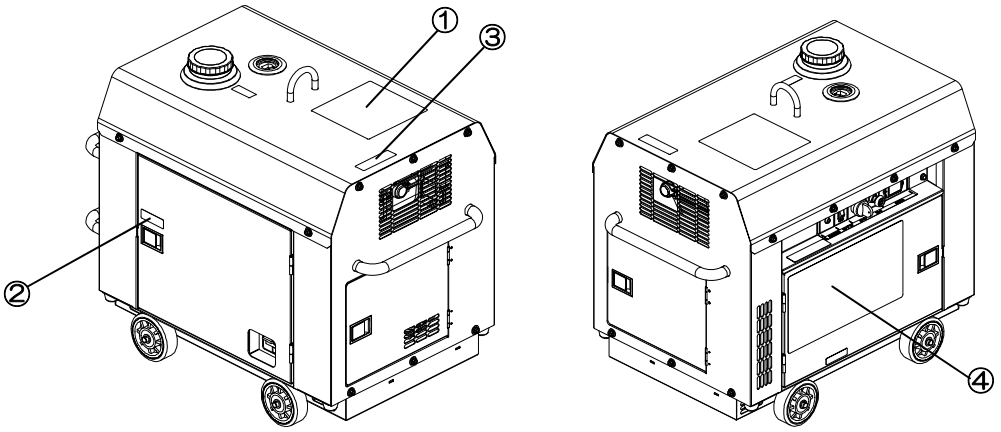
⚠ 注意：けが

- 本機を吊り上げるときは、必ず吊り金具を使用してください。取手で吊り上げると、取手が破損したり、吊り上げ用ロープがずれて落下することがあります。
- 本機をトラックなどで運搬するときは、ロープなどでしっかり固定し、本機が動かないようにしてください。
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、必ず車輪止めで固定してください。
- 運転中に移動しないでください。
- 吐水ホース内は高圧となります。補強層が露出するような深い傷のついた吐水ホースは使用しないでください。また、油・薬品や高熱・鋭利な物に触れさせないでください。
- 吐水ホースおよび噴射ガンは確実に接続してください。
- 高圧水で吹き飛ばされた泥や小石がはね返ってくることがあります。
  作業時には保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 噴射ガンのレバーが噴射『開』になっていると、エンジンが始動し、エアが抜けると同時に高圧水が噴射します。エンジンを始動するときは、必ず噴射ガンのレバーを噴射『閉』にしてください。
- 噴射時に噴射ガンを片手で持つのは危険ですので、一人で圧力調整を行う場合は、一旦噴射を止め、圧力調整ノブを回すようにしてください。このときは、数回に分けて少しずつ調整していってください。
- 圧力調整時以外は、運転中にドアを開けないでください。
- 高所から噴射ガンや吐水ホースが落下すると危険です。
  建築・土木工事の足場など、高所で噴射・揚水作業を行うときは、足場鋼管などに吐水ホースをしっかり固定してください。

■警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（）内の番号で注文してください。

①排気ガス中毒・他　（品番：X505-008593）
②高電圧　（品番：X505-007210）
③やけど　（品番：X505-007200）
④けが・取説　（品番：X505-009210）



2. 仕様

モデル		JE728MV
ポンプ	名称	WHP730C
	圧力(MPa{kgf/cm^2})	5.9{60}
	吐出量(L/min)	28
	回転速度(min^{-1})	1800
	潤滑油の種類/容量(L)	ガソリンエンジン用(SE 級以上)/0.44
	吸込液の種類/温度	清水/常温
エンジン	名称	三菱 GB221LE
	形式	空冷 4 サイクル OHV ガソリンエンジン
	連続定格出力 (kW/min^{-1}{PS/min^{-1}})	3.7/1800{5.0/1800}
	排気量(L)	0.215
	燃料の種類	自動車用レギュラーガソリン
	潤滑油の種類/容量(L)	ガソリンエンジン用(SE 級以上)/0.55
	始動方式	セル・リコイルスターター式
	スパークプラグ	NGK BPR6HS
装備・機能	メーター	積算時間計
	調圧	アンローダーバルブ
	エア抜き	自動エア抜きバルブ
	スローダウン	スローダウンバルブ
	自動停止	オイルセンサー(警告灯付)
	本機装備吸水ストレーナー	円筒形：メッシュ 40
バッテリー		ジーエス・ユアサ YTX7L-BS
燃料タンク容量(L)		約 12
連続定格運転時間(時間)		6
外形寸法　L×W×H(mm)		844×470×647
乾燥質量(kg)		88
付属品	吸水ストレーナー	円盤形：メッシュ 30
	吸水ホース	3/4″ ×3m
	余水ホース	1/2″ ×3m
	吐水ホース（カプラ付）	1/2″ ×20m（耐圧 6MPa 以上）
	噴射ガン（カプラ付）	バリアブルノズル／ノズルチップφ2.4

3. 用途

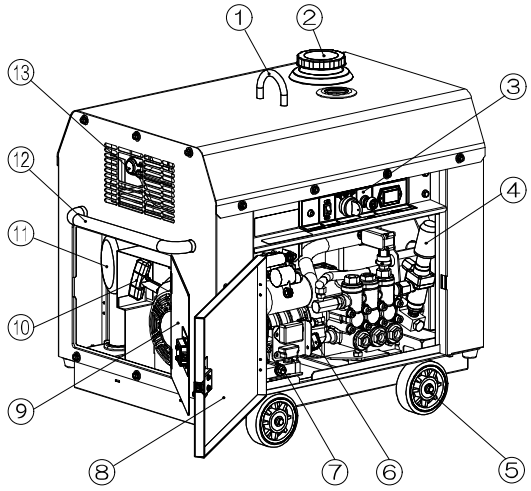
- 土木建設機械・大型車両・スレート屋根・床・路面・家畜舎屋内・プール・受水槽・高架水槽・下水管などの洗浄
- ビル・家屋などの解体時の防塵散水
- 建設現場などでの高所揚水

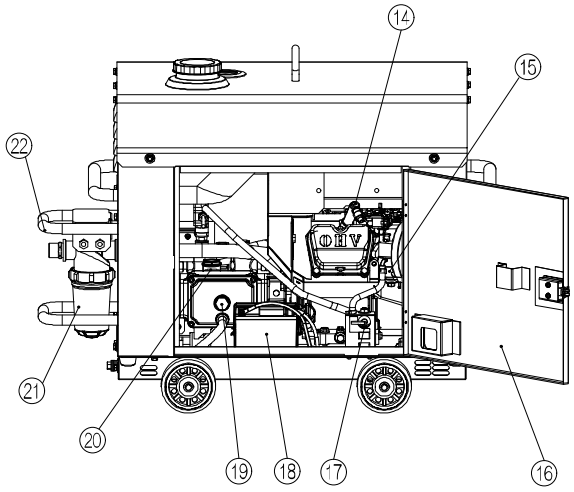
⚠ 注意：物的損害

- 洗浄対象物によっては高圧水により破損することがあります。水圧の調整をして使用してください。

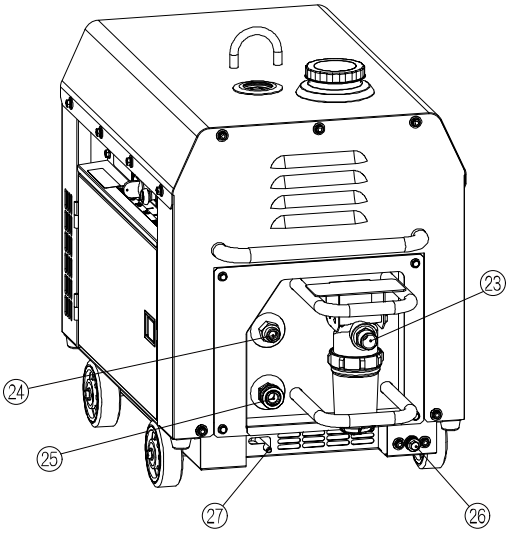
4. 各部の名称

①吊り金具
②燃料給油口
③コントロールパネル
④アンローダーバルブ（圧力調整ノブ）
⑤車輪
⑥エンジンオイルゲージ（給油口）
⑦エンジンオイルドレンプラグ
⑧フロントドア
⑨サイドドア
⑩リコイルノブ
⑪エアクリーナー（クリーナーカバー）
⑫取手
⑬マフラー（ワイヤクロス）
⑭プラグキャップ（スパークプラグ）
⑮キャブレター
⑯リヤドア
⑰燃料コック
⑱バッテリー
⑲ポンプオイルゲージ
⑳ポンプオイルキャップ（給油口）
㉑吸水ストレーナー
㉒ストレーナーガード

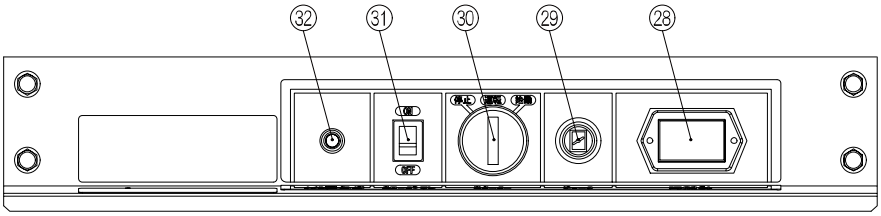




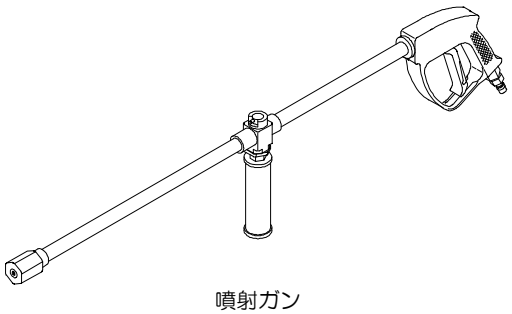
㉓吸水口
㉔余水口
㉕吐水口
㉖ポンプオイル ドレンプラグ
㉗車輪止め
㉘時間計
㉙チョークノブ
㉚スタータースイッチ
㉛スローダウンスイッチ
㉜オイル警告灯

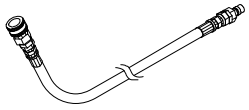


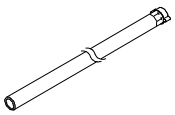
コントロールパネル



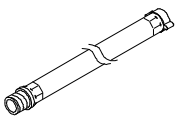
付属品

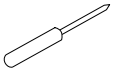

噴射ガン

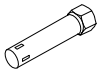

吐水ホース（20m）

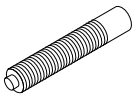

余水ホース（3m）


吸水ストレーナー
円盤形：メッシュ 30


吸水ホース（3m）


⊕ドライバー


プラグレンチ


延長チューブ

取扱説明書

保証書


スターターキー

5. 装備機能と操作

5−1. アンローダーバルブ

（1）オート・アンロード（自動無負荷）機能

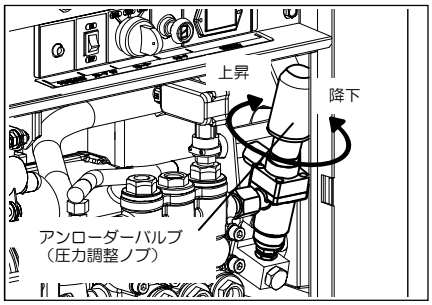
噴射を止めると、自動的に余水通路が全開になり、圧力ゼロの無負荷運転になります。燃料節約を目的とした機能です。

（2）リリーフ機能

噴射中は、圧力が設定値を超えないよう吐水の一部を余水通路へ流し、圧力を保持します。安全を目的とした機能です。

（3）圧力調整機能と操作方法

以下の方法で圧力を調整することができます。



■圧力調整方法

フロントドアを開け、圧力調整ノブを右へ回すと圧力が高くなり、左へ回すと低くなります。

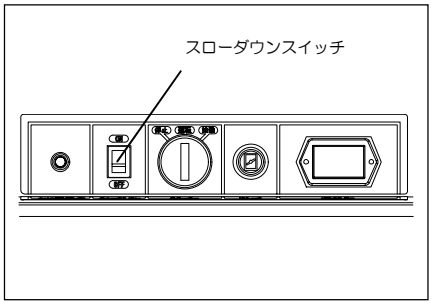
5−2. スローダウンバルブとスイッチ

（1）オート・スローダウン（自動低速・自動高速）機能

噴射を止めると圧力ゼロを感知し、自動的にエンジンが低速になります。また、噴射を開始すると、圧力上昇を感知し、自動的にエンジンが高速になります。騒音低減と燃料節約を目的とした機能です。

（2）切替え機能と操作方法

オート・スローダウンから高速固定に切り替えることができます。高速固定に切り替えると、高所揚水作業を効率よく行うことができ、スローダウンバルブ故障時にも使用が可能となります。



■切替え方法

スローダウンスイッチを『ON』にすると、オート・スローダウンになり、『OFF』にすると、高速固定になります。

5−3. エア抜きバルブ

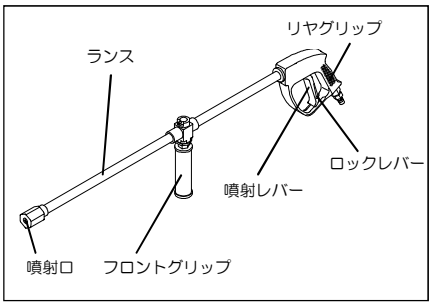
（1）オート・エア抜き機能

エンジンを始動すると自動的にポンプ内のエアが抜け、余水ホースから水が出てきます。エア抜き操作の必要はありませんが、エンジン始動時には、必ずこの確認を行ってください。

5−4. 噴射ガン

（1）噴射レバーの操作方法

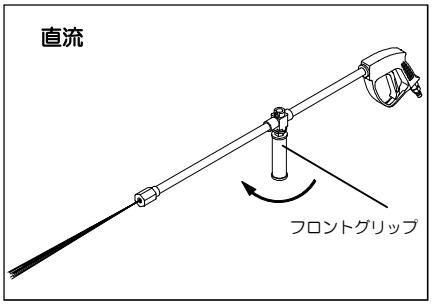
噴射レバーを引くと噴射口から高圧水が噴射し、放すと止まります。また、噴射レバー裏のロックレバーを手で倒すと、噴射『閉』で噴射レバーを固定できます。

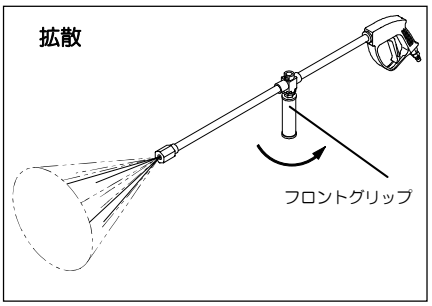


（2）ノズルの可変機能とフロントグリップの操作方法

フロントグリップの軸を 90°回すと、直流から 15°拡散まで、任意の噴射パターンに設定できます。

また、フロントグリップはランスを軸に 360°回転しますので、作業に合った持ち方ができます。





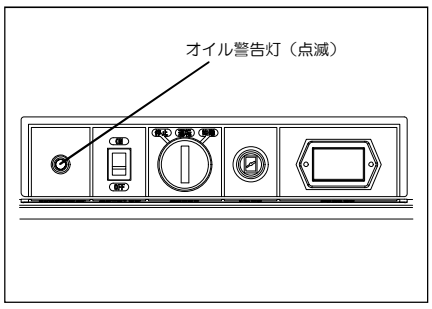
5−5. オイルセンサー

⚠ 注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。
- 停止直後はエンジンが高温になっていますので、触れないでください。

⚠ 注意：けが

- オイルセンサー作動確認のためエンジンを再始動するときは、必ず噴射ガンのレバーを噴射『閉』にしてください。



オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。

オイルセンサーが作動すると、コントロールパネルのオイル警告灯が点滅しながらエンジンが停止します。

エンジン停止後はオイル警告灯も消灯しますので、エンジンを再始動させて確認してください。

エンジン再始動後しばらくして、オイル警告灯が点滅しながらエンジンが停止する場合はオイル不足です。

『6−2. オイルの点検（1）エンジンオイル（P.13）』の項を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

＜注意＞

- オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは『9. 点検・整備（1）エンジンオイルの交換（P.22）』の項を参照して定期的に交換してください。
- 本機が傾斜していると、オイルセンサーが作動し、エンジンが停止することがあります。水平な場所で運転してください。

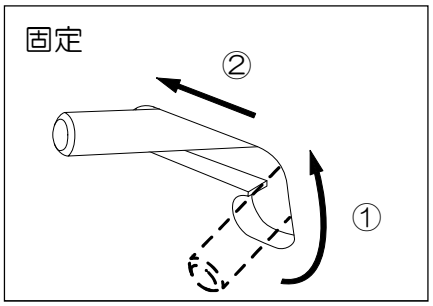
5−6. 車輪止め

> ⚠ **注意：けが**
>
> ● 本機は、水平で安定した場所に設置し、車輪は必ず車輪止めで固定してください。

本機は車輪を固定することのできる車輪止めを装備しています。車輪止めは、水平な場所で使用するときの移動防止用の装置です。車載運搬時や傾斜地に置くときは、ロープ掛けやこの車輪止め以外の装置による固定が必要です。

（1）車輪の固定方法

1. 車輪止めのレバーを矢印①の方向に上げます。
2. 本機を前後に移動させると、車輪止めのレバーが矢印②の方向に移動し、「カチッ」と音がして車輪が固定されます。
3. 本機が移動しないことを確認します。

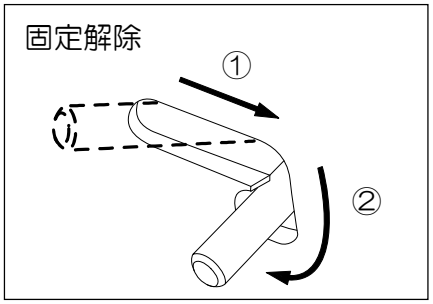


（2）車輪の固定解除方法

車輪止めのレバーを矢印①の方向に引き寄せた後、矢印②の方向に下げます。

＜注意＞

● 本機を移動させるときは、必ず車輪止めの固定を解除してください。固定させた状態で移動させると故障の原因となります。



5−7. 時間計

エンジンを運転している間の積算時間を表示します。
定期点検などは、この表示時間を目安に行ってください。

＜注意＞

● スタータースイッチが『運転』になっていると、エンジンが停止していても積算されます。この間、バッテリーは消耗しますので注意してください。

6. 始業前点検

> ⚠ **警告：火災**
>
> ● 絶対に火気を近づけないでください。

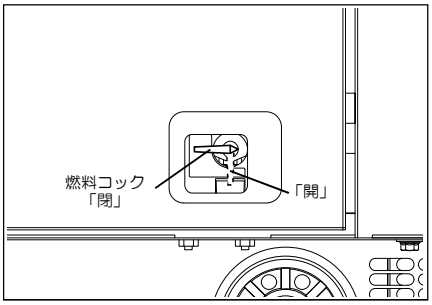
6−1. 燃料の点検

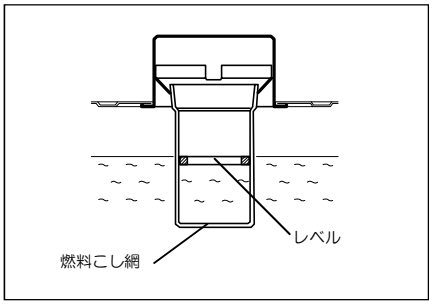
> ⚠ **警告：火災**
>
> ● 燃料の点検や給油は、静電気を除去してから行ってください。
> ● 燃料は、所定のレベル以上給油しないでください。
> ● 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料がレベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

＜注意＞

- ２ケ月以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 燃料は自動車用レギュラーガソリンを使用してください。
- 給油時は燃料コックを『閉』にし、給油口に装着してある燃料こし網を必ず使用してください。





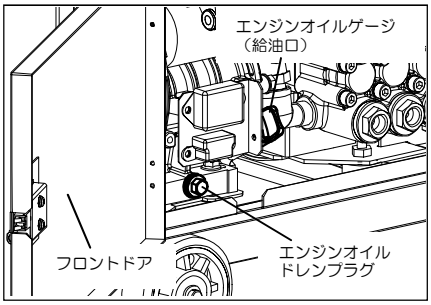
6−2. オイルの点検

本機を水平にして、オイルゲージでオイル量を点検してください。

＜注意＞

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- エンジンオイルが劣化していたり、ポンプオイルに水が混入して白濁しているときは、交換が必要です。『9. 点検・整備（1）エンジンオイルの交換（P.22）、（2）ポンプオイルの交換（P.23）』の項を参照して、オイルを交換してください。

（1）エンジンオイル

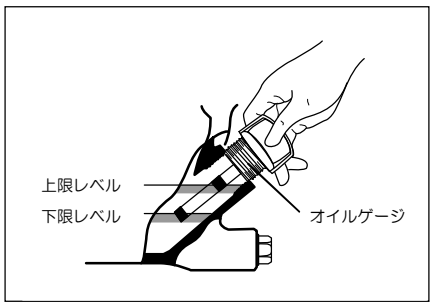


1. フロントドアを開きます。
2. オイルゲージを取り外し、ゲージ棒のオイルをふき取ります。
3. オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で（ねじ込まないで）オイル量を確認します。
4. 不足しているときはオイルを上限レベルまで給油します。

   オイル容量　：0.55L（全量）

   オイル有効量：0.20L

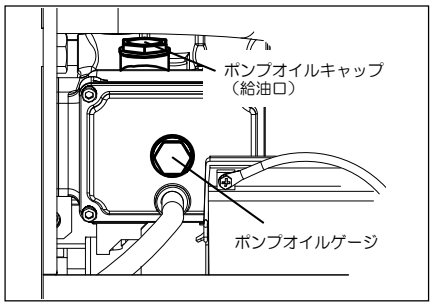
   （下限レベルから上限レベルまで）



＜注意＞

- オイル量が下限レベル付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。

（2）ポンプオイル

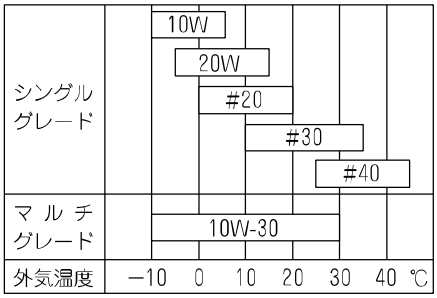


1. リヤドアを開きます。
2. オイルゲージ窓を見て、油面を確認してください。中央レベルより油面が下がっているときは給油してください。

   中央レベル：0.44L

（3）エンジンオイル・ポンプオイルの選定

オイルは外気温度に応じて適正な粘度（表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。



＜注意＞

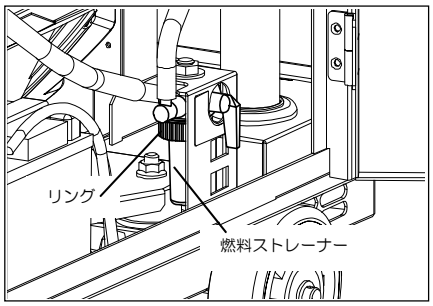
- オイルの品質は、ＳＥ級以上のものを使用してください。
- マルチグレードを使用した場合、外気温度が高いとオイルの消費量が増えますので、オイルの残量に注意してください。

6−3. 燃料・オイルもれの点検

⚠ 警告：火災

- 燃料もれの点検は、静電気を除去してから行ってください。
- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

リヤドアを開き、燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジン・ポンプからのオイルもれがないか点検してください。燃料もれの点検は燃料コックを『開』にして行い、点検後は必ず燃料コックを『閉』にしてください。



＜注意＞

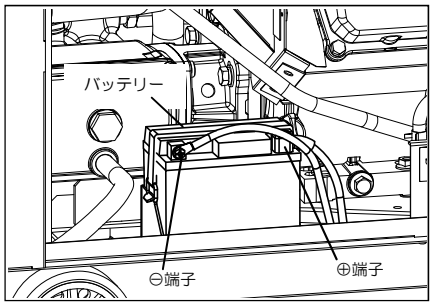
- 燃料ストレーナーのリングがゆるむと燃料がもれますので、増し締めをしてください。

6−4. バッテリー端子の締付け点検

⚠ 警告：爆発

- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。バッテリー端子のゆるみはスパーク発生の一つの原因となります。

1. リヤドアを開きます。
2. 端子のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めします。

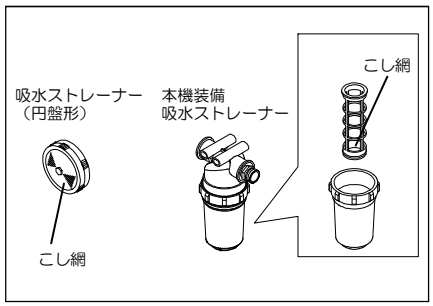


＜注意＞

- バッテリーは 12V 完全密閉型バッテリーで、液面の点検・補水は不要です。

6−5. 吸水ストレーナーの点検・清掃

こし網の破れによるゴミ・砂の浸入、こし網の目づまりによるポンプ内のエア発生（キャビテーション）は、ポンプやバルブ類の寿命を著しく低下させます。こし網を点検し、目づまりしているときは清掃、破れているときは交換してください。本機装備吸水ストレーナーの清掃は、『9. 点検・整備（5）本機装備吸水ストレーナーの清掃（P.24）』の項を参照してください。



7. 運転方法

7−1. 運転準備

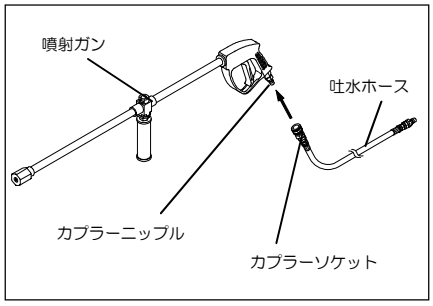
（1）噴射ガン・吐水ホースの接続

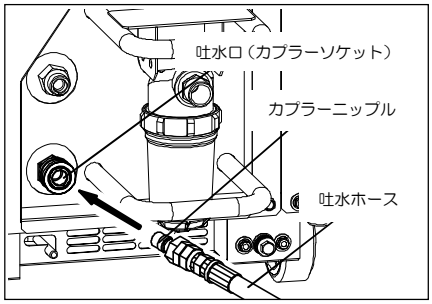
> **⚠ 注意：けが**
>
> ● 補強層が露出するような深い傷のついた吐水ホースは使用しないでください。
> ● 噴射ガン・吐水ホースは確実に接続してください。

＜注意＞

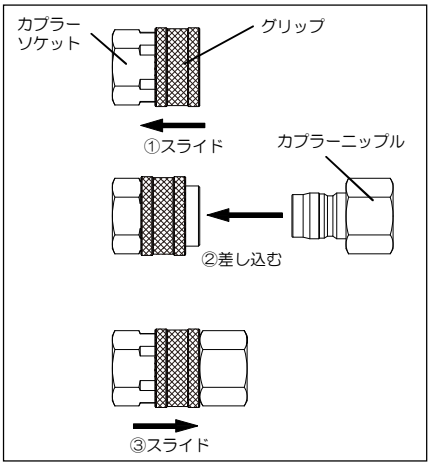
● ホース・噴射ガンは純正品を使用してください。

吐水ホースと噴射ガンおよび本機吐水口の各接続は、ワンタッチカプラー式になっています。





① カプラーソケットのグリップを押し、スライドさせます。
② そのまま、カプラーソケットにカプラーニップルを差し込みます。
③ グリップをカプラーニップル側へスライドさせます。

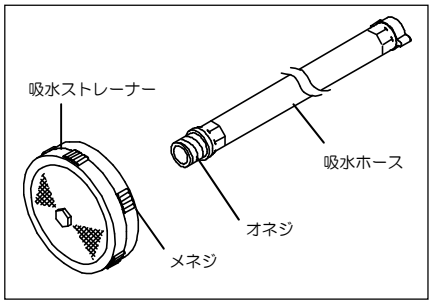


（2）吸水ストレーナー・吸水ホースの接続

＜注意＞

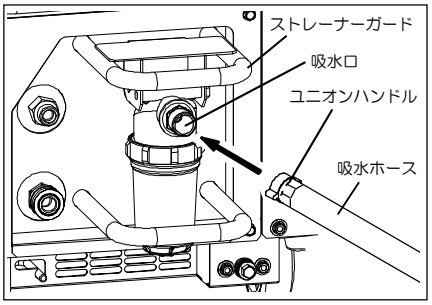
● 吸水ホースの破れおよび接続部のゆるみ、本機装備吸水ストレーナーのカップ接続部のゆるみがあると、そこからエアを吸い込み、『吸水しない』『圧力が上がらない』『圧力が脈動する』などの原因になります。各接続部のパッキン脱落や締付け不足に注意してください。

① 吸水ホースのオネジ側に、円盤形吸水ストレーナーのメネジ部を接続します。
② 吸水ホースのユニオンハンドル側を、本機装備吸水ストレーナーの吸水口に接続します。
ユニオンハンドルを回して締め付けてください。



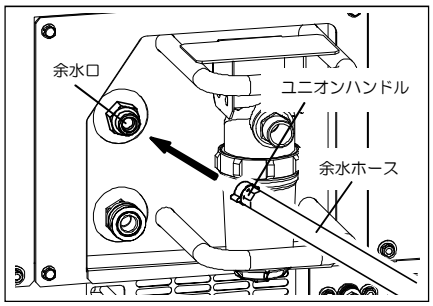
＜注意＞

● ストレーナーガードの上に乗ったり、ストレーナーガードを持って本機を持ち上げたりしないでください。ストレーナーガードが破損することがあります。



（3）余水ホースの接続

余水ホースのユニオンハンドル側を、本機の余水口に接続します。ユニオンハンドルを回して締め付けてください。



（4）水タンクの設置

1 吸水ホースが十分に届く位置に、水タンクを置きます。

＜注意＞

● 本機のマフラー排気方向は避けて、冷却吸気口をふさがないよう本機から少し離して設置してください。

● 吸込揚程（タンク水面から本機吸水口までの高さ）が 1.5m 以内となるよう設置してください。これを超えて使用すると、ポンプ内でエアが多く発生し寿命が低下します。

2 水タンクの中に、水道水などの清水を入れます。

＜注意＞

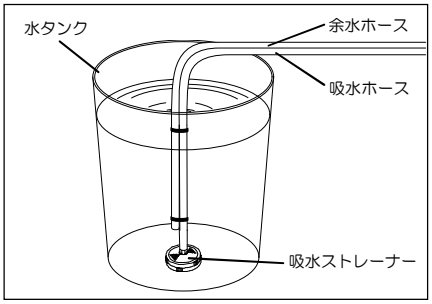
● 河川・池・工事用水などの泥・砂・ゴミを含んだ水を使用すると、吸水ストレーナーがすぐに目づまりを起こすだけでなく、ポンプ・バルブ類が故障する原因となります。

3 吸水・余水ホースを水タンクの中に入れます。

＜注意＞

● 吸水ホースは、ストレーナーからエアを吸わないよう水中に深く沈めてください。

● 余水ホースは、水タンクから飛び出さないよう、吸水ホースなどに縛り付けてください。



7−2. 始動

⚠ 警告：排気ガス中毒

● エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 警告：火災

● マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。

● 本機は壁などの障害物から 1m 以上離し、水平な場所で運転してください。

● 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせて運転しないでください。

● 車両に積載して運転しないでください。

⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気ガスを通行人や民家などに向けないでください。

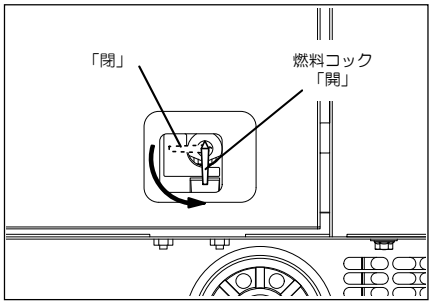
⚠ 注意：けが

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪は必ず車輪止めで固定してください。
- 噴射ガンのレバーが噴射『開』になっていると、エンジンが始動し、エアが抜けると同時に高圧水が噴射します。エンジンを始動するときは、必ず噴射ガンのレバーを噴射『閉』にしてください。また、共同で作業する場合は合図をしてからエンジンを始動してください。

＜注意＞

- エンジンを始動する前に、周囲の安全を確認してください。
- 高温・多湿になる場所やホコリが多い場所はなるべく避けて、運転してください。
- 運転中は扉を開けないでください。冷却バランスがくずれ、故障の原因となります。
- ポンプが凍結した状態で始動すると、パッキン類が損傷するだけでなく、バルブが凍結していた場合はポンプ内が異常高圧となり、ポンプが破損するおそれがあります。寒冷時には、スタータースイッチを『停止』にしてリコイルノブを引き、通常時より回転が重くなっていないか確認してください。
- 空運転を 1 分以上続けると、ポンプが故障する原因となります。エンジン始動後 20 秒程度で自動的にエアが抜けますが、この『エア抜き運転』中は空運転の状態になっていますので、エアが抜けるまで本機から離れないでください。
- 『ポンプ内の水抜き運転（P.19）』が不十分な場合、エア抜きバルブが水でふさがれたままとなり、自動的にエアが抜けません。このときは、スローダウンスイッチを『OFF（高速固定）』にして噴射ガンのレバーを引き続ける（噴射『開』）と、1 分程度でエアが抜けます。それでもエアが抜けないときは、エンジンを停止させて、お求めの販売店に修理を申しつけてください。

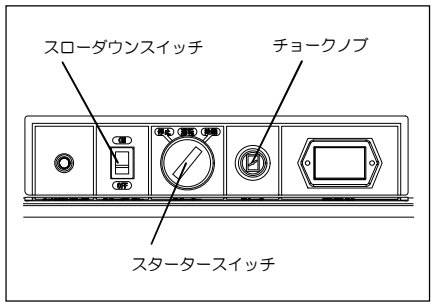
（1）セルスターターによる始動



1. 噴射ガンのレバーを噴射『閉』にします。
2. 燃料コックを『開』にします。
3. チョークノブを引きます。

＜注意＞

- エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョークノブの引き具合を加減してください。



4. スタータースイッチを『始動』にすると、セルモーターが起動してエンジンが始動します。

＜注意＞

- セルモーターは、5 秒以上連続して回さないでください。
- スタータースイッチの操作を繰り返すときは、30 秒以上間隔をあけてください。
- スローダウンスイッチを『OFF（高速固定）』にすると、始動しやすくなります。始動後は『ON』に戻してください。

5 エンジンが始動したら、スタータースイッチから手を離してください。

<注意>

- エンジン始動後は、絶対にスタータースイッチを『始動』にしないでください。

6 チョークノブを戻します。

<注意>

- 始動後、すぐにチョークノブをいっぱいまで戻すとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に戻し、最後には必ず完全に戻した状態にしてください。

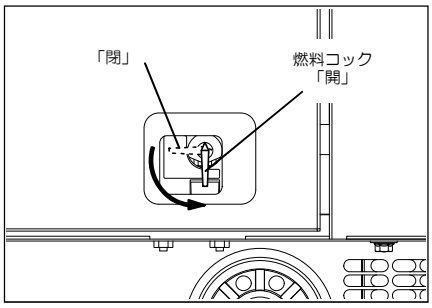
7 ポンプ内のエアが抜けて、余水ホースから水が出るのを確認します。

<注意>

- 1 分以内に余水ホースから水が出ないときはエンジンを停止させてください。

8 約 5 分間、暖機運転をします。

（2）リコイルスターターによる始動方法



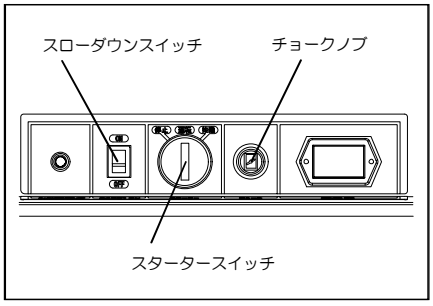
1 噴射ガンのレバーを噴射『閉』にします。

2 燃料コックを『開』にします。

3 チョークノブを引きます。

<注意>

- エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョークノブの引き具合を加減してください。



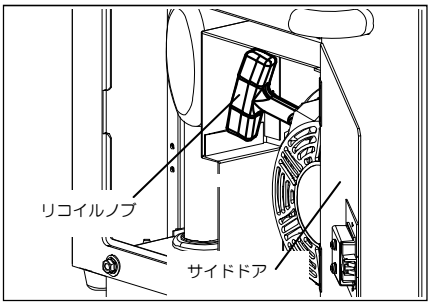
4 スタータースイッチを『運転』にします。

5 サイドドアを開きます。

6 リコイルノブを重くなるところ（圧縮点）までゆっくり引き、一度元に戻してから一気に引きます。

<注意>

- リコイルノブは、いっぱいに引ききらないでください。また、引いた位置から手放さずに、ゆっくり戻してください。
- スローダウンスイッチを『OFF（高速固定）』にすると、始動しやすくなります。始動後は『ON』に戻してください。



7 エンジン始動後、チョークノブを戻します。

<注意>

- 始動後、すぐにチョークノブをいっぱいまで戻すとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に戻し、最後には必ず完全に戻した状態にしてください。

8 ポンプ内のエアが抜けて、余水ホースから水が出るのを確認します。

<注意>

- 1 分以内に余水ホースから水が出ないときはエンジンを停止させてください。

9 約 5 分間、暖機運転をします。

7−3. 停止

⚠ 注意：けが

- 吐水ホースや噴射ガンを取り外すときは、必ずエンジンを停止し、噴射ガンのレバーを引いて（噴射『開』）、吐水ホース内の圧力を抜いてください。

＜注意＞

- 空運転を 1 分以上続けると、ポンプが故障する原因となります。

1 噴射ガンのレバーを『閉』にし、約３分間、冷機運転をします。
2 スタータースイッチを『停止』にします。

＜注意＞

- エンジンが止まらないときは、そのまま燃料コックを閉じてください。数分後に停止します。その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店に修理を申し付けください。
- 作業終了時の停止は手順 2 の前に、下記の『ポンプ内の水抜き運転』を行ってください。

『ポンプ内の水抜き運転』

スローダウンスイッチを『OFF（高速固定）』にして、水タンクから吸水ホースを持ち上げます。10 秒程度で余水ホースから水が完全に出なくなりますので、すぐにエンジンを停止させます。

＜注意＞

- 『水抜き運転』で水が抜けた後は空運転の状態になりますので、すぐにエンジンを停止させてください。

3 エンジン停止後、燃料コックを『閉』にします。
4 噴射ガンのレバーを引いて（噴射『開』）、吐水ホース内の圧力を抜きます。

＜注意＞

- 作業終了時には、吐水ホースと本機装備吸水ストレーナーのカップを取り外し、中の水を抜いてください。

8. 各種作業時の本機操作

⚠ 警告：けが

- 噴射ガンを人や動物に向けないでください。
- 噴射開閉時は反動がありますので、足元を安定させ、噴射ガンは前後のグリップを両手でしっかり持って、作業を行ってください。

⚠ 注意：物的損害

- 洗浄対象物によっては高圧水により破損することがあります。水圧の調整をして使用してください。

⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。

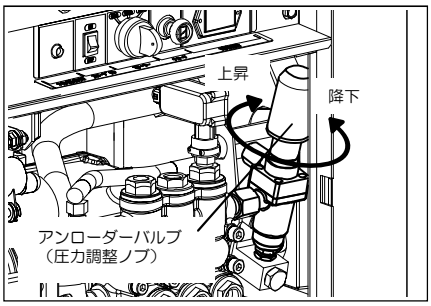
⚠ 注意：やけど

- 運転中は、マフラー排気口付近は高温になっていますので、触れないでください。

⚠ 注意：けが

- 高圧水で吹き飛ばされた泥や小石がはね返ってくることがあります。作業時には、保護めがねなどの保護具を着用してください。
- 噴射時に噴射ガンを片手で持つのは危険ですので、一人で圧力調整を行う場合は、一旦噴射を止め、圧力調整ノブを回すようにしてください。このときは、数回に分けて少しずつ調整していってください。
- 圧力調整時以外は、運転中にドアを開けないでください。
- 噴射ガンや吐水ホースが落下すると危険です。建築・土木工事の足場など、高所で噴射・揚水作業を行うときは、足場鋼管などに吐水ホースをしっかり固定してください。
- 吐水ホースは、油・薬品や高熱・鋭利な物に触れさせないでください。

8−1．洗浄・防塵散水作業



1. フロントドアを開きます。
2. 噴射口を前方下向きにして噴射ガンを持ち、噴射させます。
3. 作業に適した圧力になっていないときは、噴射を止めます。
4. アンローダーバルブの圧力調整ノブを設定したい圧力の方に少し回します。

＜注意＞

- 圧力調整ノブを右に回すと圧力が高くなり、左へ回すと低くなります。『5−1．アンローダーバルブ（3）圧力調整機能と操作方法（P.10）』を参照してください。
- 圧力を下げすぎた場合、スローダウンバルブが作動せず、噴射を開始してもエンジンが高速になりません。また、圧力調整ノブを左へ回し続けるとネジ接続が外れますので、圧力を下げすぎないでください。
- スローダウンバルブの故障でエンジンが高速にならず、圧力が上がらないときは、スローダウンスイッチを『OFF（高速固定）』にしてください。

5. 手順 2 ～ 4 を繰り返して少しずつ調整し、適した圧力に設定します。

＜注意＞

- 2 人のときは、噴射と圧力調整を分担してください。

6. フロントドアを閉じます。
7. 噴射ガンのレバーを『開』にし、作業を開始します。

＜注意＞

- 圧力調整時以外は運転中に扉を開けないでください。冷却バランスがくずれ、故障の原因となります。

8−2. 高所揚水作業

⚠ 注意：けが

- 吐水ホースや噴射ガンを取り外すときは、必ずエンジンを停止し、噴射ガンのレバーを引いて（噴射『開』）、吐水ホース内の圧力を抜いてください。

① エンジンを停止させます。
② 噴射ガンのレバーを引いて（噴射『開』）、吐水ホース内の圧力を抜きます。
③ 吐水ホースを本機から抜き取ります。
④ 噴射ガンを吐水ホースから取り外します。
⑤ 吐水ホースを揚水場所まで運び、カプラーニップル側を下にして降ろします。
⑥ 吐水ホースが落下しないように、ひもなどで固定します。
⑦ 吐水ホースを本機に接続します。
⑧ スローダウンスイッチを『OFF（高速固定）』にします。

＜注意＞

- スローダウン『ON』でも揚水できますが、余水ホースから水が戻り、揚水量が少なくなります。

⑨ 高所の方で揚水準備が完了したら、エンジンを始動させます。

＜注意＞

- 低い圧力に設定していたときは、余水ホースからも水が出ます。このときは、余水がゼロになるまで、アンローダーバルブの圧力調整ノブを右へ回してください。

⑩ 揚水が終わり水を止めるときは、エンジンを停止させます。

9. 点検・整備

⚠ 警告：感電・けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。
  尚、点検・整備中に他の人が誤って運転しないよう、スタータースイッチのキーを抜き取っておいてください。

⚠ 警告：火災

- 火気を近づけないでください。

⚠ 注意：やけど

- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表に従って定期的に点検・整備を行ってください。稼動時間は、時間計を目安にしてください。

＜注意＞

- 始業前点検以外は、専門技術者が行ってください。
- 表中の●印はお求めの販売店に申しつけてください。
- 交換部品は必ず純正品を使用してください。
- オイル・燃料などの廃液を抜くときは、地面に垂れ流さないよう容器に受けてください。これら廃液やバッテリーなどの消耗部品を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

	点検・整備項目	始業前 点検	50 時間 ごとに	100 時間 ごとに	500 時間 ごとに	
1	エンジンオイルの点検・給油（P.13）	○				
2	エンジンオイルの交換（P.22）		○ 50～100 時間 （初回25 時間）			
3	ポンプオイルの点検・給油（P.13）	○				
4	ポンプオイルの交換（P.23）				○ （初回100時間）	
5	燃料・オイルもれの点検（P.14）	○				
6	バッテリー端子の締付け点検（P.14）	○				
7	バッテリーの充電・交換（P.25）					※
8	吸水ストレーナーの点検・清掃（P.14）	○				
9	吸水・吐水ホースの傷・破れ点検	○				
10	エアクリーナーの清掃・交換（P.23）		○ （清掃）			※ （交換）
11	燃料ストレーナーの清掃（P.24）		○ 50～100 時間			
12	マフラーワイヤクロスの清掃（P.27）				○	
13	スパークプラグの清掃・調整（P.26）		○ 50～100 時間			
14	吸排気弁のすきまの点検・調整			● 100～300 時間		
15	燃焼室の清掃			● 100～300 時間		
16	燃料タンク、燃料こし網、キャブレターの清掃				●	
17	燃料パイプの点検					● 1 年ごとに (必要に応じて交換)
18	燃料パイプの交換					● 2年ごとに
19	防振ゴムの交換					● 4 年ごとに

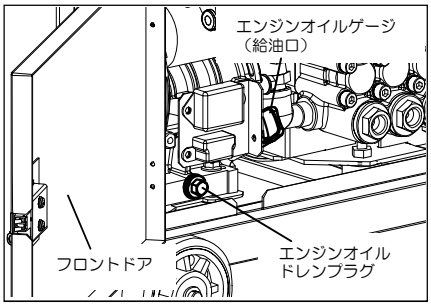
※点検時期は本文に記載

（1）エンジンオイルの交換

＜注意＞

- エンジンオイルの種類は、『6−2.オイルの点検（3）エンジンオイル・ポンプオイルの選定（P.14）』の項を参照してください。

初回	25 時間
2 回目以降	50～100 時間ごと



1 フロントドアを開きます。
2 エンジンオイルゲージを外します。
3 オイル排出口に受皿を置きます。

④ エンジンオイルドレンプラグを外してエンジンオイルを抜きます。
⑤ エンジンオイルドレンプラグを締め付けます。
⑥ エンジンオイルを上限レベルまで入れます。
（0.55L）
⑦ エンジンオイルゲージを締め付けます。

＜注意＞

- オイル交換後、エンジンをしばらく運転して、ドレンプラグからオイルもれがないことを確認してください。

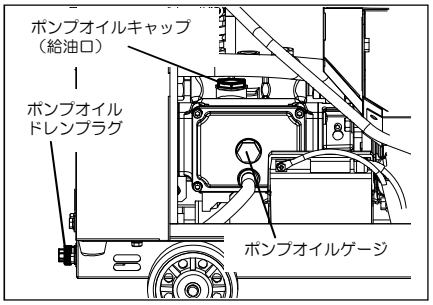
（2）ポンプオイルの交換

ポンプオイルの給油口は本機内部奥にあります。お客様自身での交換が難しい場合は、お求めの販売店に申し付けてください。

＜注意＞

- ポンプオイルの種類は『6−2.オイルの点検（3）エンジンオイル・ポンプオイルの選定（P.14）』の項を参照してください。

初回	100 時間
2 回目以降	500 時間ごと



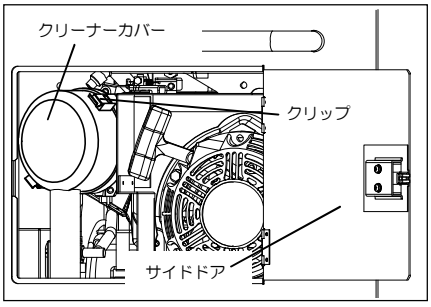
① リヤドアを開きます。
② ポンプオイルキャップを抜き取ります。
③ オイル排出口に受皿を置きます。
④ ポンプオイルドレンプラグを外して、オイルを抜きます。
⑤ ポンプオイルドレンプラグを締め付けます。
⑥ 付属の延長チューブを使用し、オイルをオイルゲージ窓の中央レベルまで入れます。（0.44L）
⑦ ポンプオイルキャップを差し込みます。

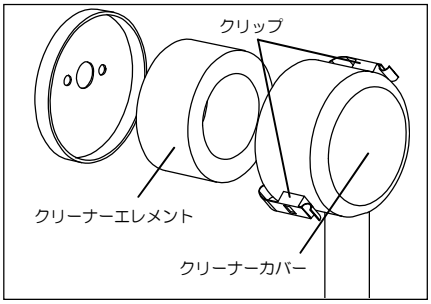
（3）エアクリーナーの清掃・交換

清掃	50 時間ごと

＜注意＞

- ホコリの多い場所で使用したときは、早めに清掃してください。
- クリーナーエレメントは経年劣化によりもろくなりますので、その場合は交換してください。
- クリーナーエレメントは『三菱重工業 品番：KA01105BA005』を使用してください。





① サイドドアを開きます。
② 固定用クリップをゆるめて、クリーナーカバーを取り外します。
③ クリーナーエレメントを取り出します。

4 洗油（白灯油）で洗浄後、混合油（白灯油３：エンジンオイル１）に浸し、滴下しない程度に軽く絞ります。

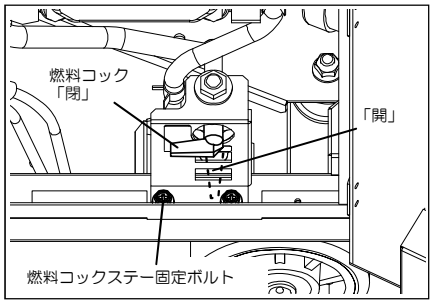
5 組込みは逆の手順で行います。

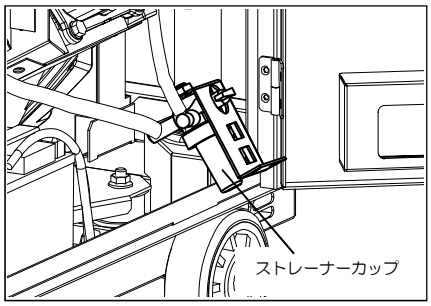
（4）燃料ストレーナーの清掃

⚠ 警告：火災

- 燃料ストレーナーの清掃などは、静電気を除去してから行ってください。

清掃	50～100 時間ごと





1 リヤドアを開きます。

2 燃料コックを『閉』にします。

3 燃料コックステーを固定しているボルトを外します。

4 燃料コックを手前に引き出します。

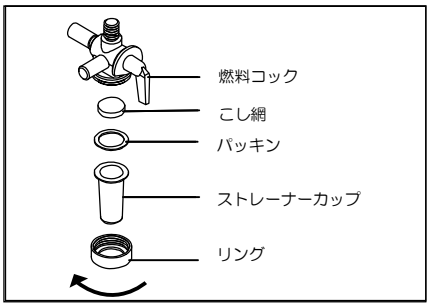
5 リングを左に回し、ストレーナーカップを外します。

6 ストレーナーカップ内の水やゴミを捨て、こし網に付着しているゴミを取り除きます。

7 組み込みは逆の手順で行いますが、燃料もれがないよう、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してリングをしっかり締め付けます。

＜注意＞

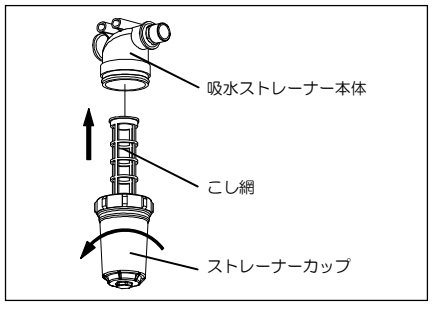
- 取付け後は、燃料コックを『開』にして燃料もれがないことを必ず確認し、確認後は『閉』にしてください。



（5）本機装備吸水ストレーナーの清掃

＜注意＞

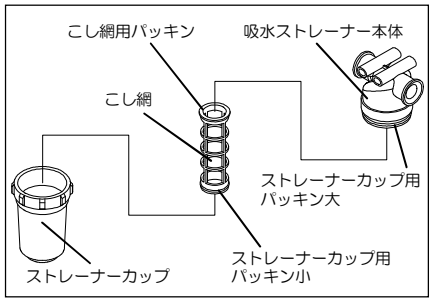
- こし網の目づまりがひどくなると、圧力低下を起こすだけでなく、ポンプ内にエアが発生（キャビテーション）して、ポンプ・バルブ類の寿命を著しく低下させる原因となります。都度、汚れをチェックして、早めに清掃してください。



1 ストレーナーカップを左に回し、吸水ストレーナー本体から取り外します。

2 こし網を、ストレーナーカップから抜き取ります。

＜注意＞



● こし網を取り外した後は、吸水ストレーナー本体の中央通路およびこし網の内側にゴミ等が入らないよう注意してください。

3 こし網に付着したゴミを取り除きます。やわらかいブラシ等で表面に付着しているゴミを取り除き、流水できれいに流してください。

4 吸水ストレーナー本体のストレーナーカップ用パッキン大（O リング）とこし網のストレーナーカップ用パッキン小（O リング）に付着したゴミを取り除きます。

＜注意＞

● ストレーナーカップ用パッキンにゴミが噛み込むと、エアを吸い込み、『吸水しない』『圧力が上がらない』『圧力が脈動する』などの原因になります。

5 こし網用パッキンに付着したゴミを取り除きます。

＜注意＞

● こし網用パッキンにゴミが噛み込むと、ゴミが浸入し、ポンプ・バルブ類が故障する原因になります。

6 ストレーナーカップを右に回して、エアを吸い込まないようしっかり締め付けます。

（6）バッテリーの充電と交換

⚠ 警告：目や皮膚の傷害

● バッテリー液には希硫酸が含まれています。バッテリーを転倒させたり、衝撃をあたえたりしないでください。バッテリー液が漏れ、やけどや失明の原因となることがあります。バッテリー液が付着したときはすぐに多量の水で洗い流し、特に目に入ったときは必ず医師の診断を受けてください。

⚠ 警告：爆発

● バッテリーは引火性ガスを発生しますので、付近でスパークさせたり火気を近づけないでください。バッテリー端子のゆるみはスパーク発生の一つの原因となります。

セルモータの回転音が弱いときやセルモータが起動しないときは、バッテリを充電してください。

充電しても改善されないときは、バッテリの寿命ですので、新品と交換してください。

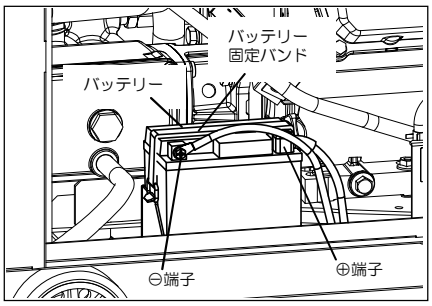
＜注意＞

● バッテリーケーブルの取り外しは必ず『－』側を先に、取付けは必ず『＋』側を先に行ってください。バッテリーの出し入れは、端子が本機に触れないよう注意して行ってください。

■バッテリーの充電方法

＜注意＞

● バッテリーは 12V 完全密閉型バッテリーで、液面の点検・補水は不要です。密閉栓は絶対にはずさないでください。
● 12V 完全密閉型バッテリー専用の充電器を使用してください。それ以外の充電器を使用すると性能が著しく低下することがあります。
● 専用の充電器をお持ちでないときは、お求めの販売店に申し付けてください。
● 充電コードは、『＋』『－』の極性を間違えないで接続してください。



1. リヤドアを開きます。
2. 『－』側ケーブルを外します。
3. 『＋』側ケーブルを外します。
4. バッテリー固定バンドを外します。
5. 本機からバッテリーを取り出します。
6. 充電器の『－』コードを、バッテリーの『－』端子に接続します。
7. 充電器の『＋』コードを、バッテリーの『＋』端子に接続します。
8. 下表の条件で充電を開始します。

標準	0.7A × 5～10 時間
急速	3A × 1 時間

9. 充電が終了したら 2 ～ 5 の逆の手順でバッテリーを取付けます。

■バッテリーの交換方法

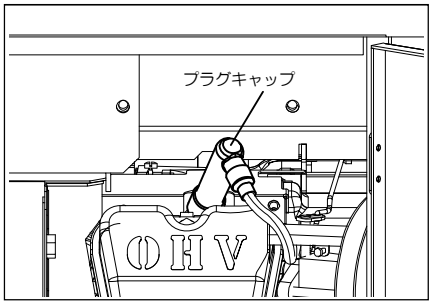
1. リヤドアを開きます。
2. 『－』側ケーブルを外します。
3. 『＋』側ケーブルを外します。
4. バッテリー固定バンドを外します。
5. 本機からバッテリーを取り出します。このとき、端子を本機の金属部に接触させないでください。
6. 2 ～ 5 の逆の手順で新しいバッテリーを取付けます。

＜注意＞

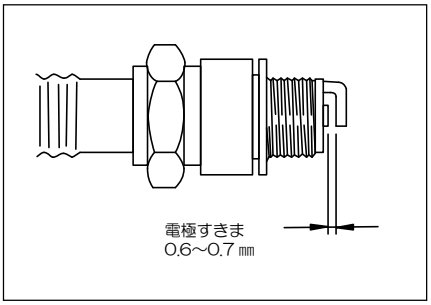
- バッテリーは『ジーエス・ユアサ 型番：YTX7L-BS』を使用してください。

(7) スパークプラグの清掃と調整

清掃・調整	50～100 時間ごと



1. リヤドアを開きます。
2. プラグキャップを取り、プラグレンチでスパークプラグを外します。
3. スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤブラシで汚れを落とします。
4. 電極間すきまを 0.6～0.7 ㎜に調整します。
5. プラグレンチでスパークプラグを締め付けて、プラグキャップを取り付けます。

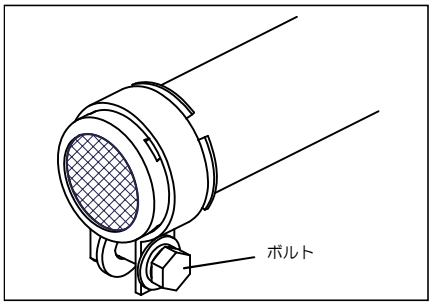


＜注意＞

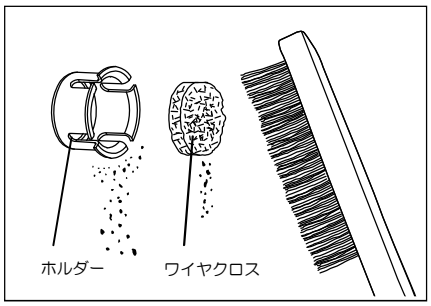
- プラグを交換するときは『NGK 型番：BPR6HS』を使用してください。
- プラグの締付けトルク：15～25N·m

（8）マフラーワイヤクロスの清掃

清掃	500 時間ごと



1. ボルトをゆるめて、マフラーからホルダーとワイヤクロスを取り外します。
2. ワイヤブラシを用いてホルダーとワイヤクロスの汚れを取り除きます。
3. ホルダーとワイヤクロスをマフラに取り付けて、ボルトを締め付けます。



10. 長期保管

⚠ 警告：感電・けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
  尚、整備中に他の人が誤って運転しないよう、スタータースイッチのキーを抜き取っておいてください。

⚠ 警告：火災

- 火気を近づけないでください。
- 燃料の抜取りや燃料ストレーナーの清掃などは、静電気を除去してから行ってください。

⚠ 注意：やけど

- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから行ってください。

⚠ 注意：火災

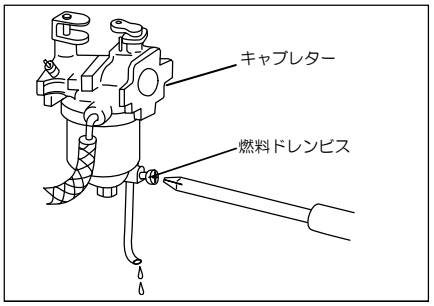
- 保管用カバーなどを掛けるときは、本機が冷えてから行ってください。

＜注意＞

- キャブレター内にガソリンを入れたまま長期間放置すると、内部のジェットがつまり、始動不良や回転不調などを起こす原因となります。
- ポンプやホース内に水が残ったまま長期間放置すると、凍結や内部腐食を起こす原因となります。
- 燃料を抜くときは、地面に垂れ流さないよう容器に受けてください。抜いた燃料を廃棄するときは、産業廃棄物として関連法規に基づいた処理を行ってください。処理にお困りのときは、お求めの販売店にご相談ください。

本機を２ケ月以上使用しないときは、次の手順で整備を行ってから保管してください。

1. 本機装備吸水ストレーナーを清掃します。（『9. 点検・整備（5）本機装備吸水ストレーナーの清掃（P.24）』の項を参照）
2. 燃料コックを『閉』にします。
3. スタータースイッチ『停止』でリコイルを引きポンプ内の水抜きができているか確認します。
4. 燃料コックステー固定ボルトを外して、燃料コックを引き出します。（『9. 点検・整備（4）燃料ストレーナーの清掃（P.24）』の項を参照）
5. リングをゆるめ、ストレーナーカップを外します。
6. 燃料コックを『開』にして、燃料タンク内の燃料を容器に受けて全部抜きます。
7. 燃料コックを『閉』にします。
8. ストレーナーカップのパッキンにゴミが付着していないことを確認します。
9. ストレーナーカップをリングでしっかり締め付けます。
10. 燃料コックを元の位置に戻し、燃料コックステー固定ボルトを締め付けます。
11. キャブレターの燃料ドレンビスをゆるめて、キャブレター内の燃料を容器に受けて全部抜きます。
12. キャブレターの燃料ドレンビスを締め付けます。
13. エンジンオイルを交換します。（『9. 点検・整備（1）エンジンオイルの交換（P．22）』の項を参照）
14. スパークプラグを外し、その穴からエンジンオイルを2～3mL 注入します。（『9. 点検・整備（7）スパークプラグの清掃と調整（P.26）』の項を参照）



15. リコイルノブをゆっくり数回引きます。
16. スパークプラグを締め付けます。
17. エアクリーナーを清掃します。（『9. 点検・整備（3）エアクリーナーの清掃・交換（P.23）』の項を参照）
18. バッテリーを取り外します。（『9. 点検・整備（6）バッテリーの充電と交換 ■バッテリーの交換方法（P.26）』の項を参照）

＜注意＞

- 取り外したバッテリーは、換気のよい火気のない、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 取り外したバッテリーは、月１回程度補充電を行ってください。

19. 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーをかけて保管します。

11．故障時の対応

⚠ 警告：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。
  尚、点検・処置中に他の人が誤って運転しないよう、スタータースイッチのキーを抜き取っておいてください。

⚠ 警告：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。
  尚、点検・処置中に他の人が誤って運転しないよう、スタータースイッチのキーを抜き取っておいてください。

⚠ 警告：火災

- 火気を近づけないでください。
- 燃料ストレーナーの清掃などは、静電気を除去してから行ってください。

⚠ 注意：やけど

- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。点検しても正常にならないときは、お求めの販売店に修理を申し付けてください。

症状	推定原因	処置
セルモーターが起動しない	1．バッテリーのあがり 2．バッテリーの劣化	1．バッテリーを充電する 2．バッテリーを交換する
エンジンが始動しない	1．燃料コック『閉』 2．燃料の不足 3．燃料に水やゴミが混入	1．燃料コックを『開』にする 2．燃料を給油する 3．燃料タンク・燃料ストレーナー・キャブレター内部の水抜きと清掃
エンジンがすぐ停止する	1．オイルセンサー作動	1．エンジンオイルを給油する
エンジン出力が落ちた	1．エアクリーナーの目づまり 2．ワイヤクロスの目づまり	1．エアクリーナーの清掃 2．ワイヤクロスの清掃
水を吸わない	1．円盤形吸水ストレーナーが水中に沈んでいない 2．吸水ホース、本機装備吸水ストレーナーカップの接続がゆるい 3．吸水ホース、本機装備吸水ストレーナーカップのパッキン脱落 4．吸水ホースの破損 5．吸込揚程が高すぎる 6．円盤形および本機装備吸水ストレーナーの目づまり	1．吸水ストレーナーを沈める 水タンクに水を補充 2．増し締めする 3．パッキンを取付ける 4．吸水ホースを交換する 5．水タンクを上げる 本機を下げる 6．ゴミを取り除く
圧力が上がらない	1．円盤形および本機装備吸水ストレーナーの目づまり 2．噴射ガンのノズルチップの磨耗 3．スローダウンバルブの故障 4．吸水ホース、本機装備吸水ストレーナーカップの接続がゆるい 5．吸水ホース、本機装備吸水ストレーナーカップのパッキン脱落 6．吸水ホースの破損	1．ゴミを取り除く 2．ノズルチップを交換する 3．スローダウンスイッチ『OFF』で使用する 4．増し締めする 5．パッキンを取付ける 6．吸水ホースを交換する

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL：0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL：0428-32-6181（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2025 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。